当キャンペーンにより支援する活動のご紹介
開発事業　～飢餓に直面する人々の自立支援～　－　約 4365 万円　－

Pick Up！ バングラデシュでの事業例

■農業訓練センター運営／女性組織支援　－家計にも環境にも優しい農業を推進－

有機農業を実践している農家を見学。センターの宿泊施設が整えば、より遠方の農家も研修に参加できるように。

WEH の週次会合。共同貯蓄を元手にした事業を充実させ、今年度は協同組合としての登録をめざすグループも。

HFW の活動地カリガンジ郡は、住民の 85%近くが農業を営んでいますが、化学肥料や農薬の使用が家計を圧迫し、健康被害、環境破壊も深刻です。そこで、HFW は農業訓練センターを運営。有機堆肥や植物性農薬の作り方、使い方の研修などを行い、環境や人体、家計にも優しい有機農業を推進しています。今年度は、より多くの農家が研修を受けられるよう宿泊施設の増築や、収入創出につながる農産物の加工設備を設置する予定です。

また、男性に比べて地位が低く見られ、貧しい生活から抜け出せない女性たちの自立のため、自助組織ウィメン・エンディング・ハンガー（WEH）の活動を支援しています。各村の WEH は、HFW 職員の助言を受けながら週１回の会合を開き、各自の抱える問題や改善策を話し合ったり、収入創出のための共同事業を始めたりしています。

※回収キャンペーンの資金は、農業センター運営や WEH 支援の費用として活用させていただきます。この他、住民の自立に必要な教育や保健衛生等の事業や、こうした支援を行うために必要な調査・評価活動、各種研修や運営費の一部にも充てさせていただきます。

Pick Up！ ベナンでの事業例

■青少年・成人対象の識字教育／衛生改善　－知識は命を守り、自立につながる－

現地語、さらにフランス語の読み書きができれば就職や商売にも役立ち、貧困を抜け出すきっかけに。

住民の家を回っての衛生指導。知識を身につけて病気を防ぎ、命を守ります。

約6割の人が字の読み書きができないベナン。HFWは活動地ベト村で、2004年度から識字教室で現地語フォン語の教育を行っています。昨年度は205名が学び、過去の卒業生の中には、教員となり教室で教える立場になった人も。さらに今年度は、以前から要望が多かった公用語であるフランス語の入門クラスを開始します。

また、住民の衛生に関する知識が乏しく、不衛生な環境で感染症などが蔓延してしまうことが以前から大きな問題でした。そこで今年度は、新たに衛生改善活動を開始します。既存の事業で住民が集まる機会などを活用し、イラスト教材やラジオを使って、手洗いやトイレ利用、台所を清潔にすることなど家庭での衛生管理の大切さを伝えていくほか、トイレや生ごみを捨てる堆肥コンポストの設置を行う予定です。

※回収キャンペーンのご支援は、識字教室の運営費や衛生啓発の教材費などに活用させていただきます。この他、住民の自立に必要な教育や収入創出、栄養改善等の事業や、こうした支援を行うために必要な調査・評価活動、各種研修や運営費の一部にも充てさせていただきます。

Pick Up！ ブルキナファソでの事業例

■学校給食／協同組合支援　ー給食とお母さんの収入が、子どもたちを守るー

食料不足の中、子どもたちが給食を食べられることは、お母さんたちに大きな安心感を与えています。

お米を販売する女性たちのグループ。価格が安い時期に買い、高くなる時期に市場で売ることで収益を得ています。

ブルキナファソは昨年、西アフリカ一帯で起きた天候不順の影響で食料不足が続き、HFWの活動地の住民たちも、食事の質・量ともに落とした生活を送っています。特に免疫力の弱い子どもたちが栄養不良にならないよう、守ることが必要です。HFWでは、これまでの2校に加え、2012年度から新たにもう1校の小学校で給食提供をはじめます。

また、住民の多くが自給自足の生活を送っていますが、農作物の不作などで備蓄がなくなれば購入せざるをえません。そこで、家族の生活を支える母親の収入を向上させるため、村の女性協同組合を対象にマイクロクレジット（小規模貸付）を開始し、女性たちが行う玉ねぎや米の販売、地酒づくりといった小規模ビジネスを支援していきます。

※回収キャンペーンの資金は、学校給食の食材費や協同組合の運営、貸付金などとして活用させていただきます。この他、住民の自立に必要な教育や栄養改善等の事業や、こうした支援を行うために必要な調査・評価活動、各種研修や運営費の一部にも充てさせていただきます。

Pick Up！ ウガンダでの事業例

■育苗場運営・植林／公共トイレ建設・衛生研修　ー住民主体で植林活動を継続ー

育苗場をつくり、技術指導ボランティアを育てることで、住民たちが主体となって植林が続けられるようになります。

公衆トイレの外には手洗い場も設置します。よりよい地域づくりは、住民たちが病気にならず、健康でいてこそ。

森林伐採が急激に進むウガンダでは、降雨量が年々減少しています。そこで HFW は、環境保護と同時に、実った果物を食べたり売ったりすることで栄養改善と収入につながる果樹や、建材として売れるユーカリの植林を行っています。育苗場で住民自身による苗木づくりから支援し、昨年は約 37 万本の苗を配布しました。今年もマンゴー、オレンジといった果樹、ユーカリなどの苗木を育て、植林を続けます。また住民の中から選ばれた技術指導ボランティアに対し、環境教育や有機肥料の使い方などの研修を実施します。

保健衛生分野では、村の市場など人が集まる場所に公衆トイレを建設します。衛生の知識が少ない住民たちには研修を行い、トイレの使用が井戸水の汚染を防ぐこと、手洗いが赤痢やコレラといった病気の予防になることを伝えていきます。また、過去に建設した井戸の水質検査を行い、汚染がないかも確認します。

※回収キャンペーンの資金は、こうした植林事業や公衆トイレの建設費用に活用させていただきます。この他、住民の自立に必要な教育や収入創出、栄養改善等の事業や、こうした支援を行うために必要な調査・評価活動、各種研修や運営費の一部にも充てさせていただきます。

アドボカシー、啓発活動、青少年育成など　－ 約 4365 万円 －

Pick Up！ アドボカシー　－飢餓を生む構造を変える－

「FAO 世界食料安全保障委員会」。FAO 加盟国や国連機関、NGO などが参加し、世界の食料問題について議論します。

ウガンダ国内の 400 団体以上が加盟するネットワークで活躍する HFW ウガンダ支部事務局長（右端）。

HFW は他団体とも協力して、政府や国際機関に飢餓の終わりに効果的な行動を提言し、飢餓を生みだす社会構造の転換をめざします。

日本では、飢餓や栄養不良の解決に向けて活動する国際機関、NGO などのネットワーク「ゼロ・ハンガー・ネットワーク・ジャパン」の運営委員会に参加し、他団体と協力して情報発信や政府や社会への働きかけを行います。昨年は、ネットワークを代表して HFW 職員がローマでの「FAO 世界食料安全保障委員会」にオブザーバー参加し、世界の動向を確認しました。2012 年度は、戦略策定と担当職員の採用を行い、さらに活発にアドボカシーを展開する予定です。

海外でも、ウガンダ支部事務局長が理事長を務める「ウガンダナショナル NGO フォーラム」が、小学生の識字・計算能力に関する調査報告をまとめ、政府に初等教育の質の向上を求めるなど、HFW は各国の NGO ネットワークに加盟し、提言活動を行っています。

※回収キャンペーンの資金は、こうした各国でのアドボカシーの費用として活用させていただきます。この他、アドボカシーを行うために必要な調査・評価活動、各種研修や運営費の一部にも充てさせていただきます。

Pick Up！ 啓発活動　－“飢餓をなくす人”を増やす－

「世界から飢餓を終わらせるための 30 の方法」（左）、「世界食料デー」月間のチラシ（右）。

バングラデシュの活動地ボダ郡での世界貧困デーイベント。昨年は地方議員を招いての公開討論を行いました。

HFW は、日本では私たちの暮らしや食生活が世界の飢餓とつながっていることを伝え、海外の活動国では現状をあきらめずに立ち上がることを住民に呼びかけ、ともに飢餓の終わりのために行動することを訴えています。

日本では、3 月に出版された「世界から飢餓を終わらせるための 30 の方法」（合同出版）を編著。HFW 職員のほか、NGO 関係者、ジャーナリスト、生協関係者などに執筆を依頼し、世界の飢餓について専門的な内容から身近にできることまで、分かりやすく紹介しました。

より広く食料問題について考えてもらうため、10 月の「世界食料デー」月間には、国際機関や NGO/NPO、企業と一緒に情報発信やイベントを開催。今年もチラシや特設ホームページの制作など、事務局として運営全体を担っています。

バングラデシュでも、10 月の世界食料デー、世界貧困デーに合わせて、毎年イベントなどを開催。2012 年度も安全な食や農業政策について訴え、住民たちに行動を呼びかけていきます。

※回収キャンペーンの資金は、こうした各国での啓発活動、イベント開催の費用として活用させていただきます。この他、活動を行うために必要な調査・評価活動、各種研修や運営費の一部にも充てさせていただきます。

Pick Up！ 青少年育成　ー若者が飢餓をなくすー

YEH ブルキナファソでは、小学校で子どもたちと一緒に清掃活動、植林をして学校の環境を改善。

YEH 茨城のメンバーが、ほかの学生団体とともに学食での啓発、チャリティイベントを企画。

未来の担い手となる若者は、飢餓の終わりの鍵となる大きな可能性。HFW は、世界 5 ヵ国で活動する青少年組織ユース・エンディング・ハンガー（YEH）を通じて若者の活動をサポートしています。

YEH は、海外4ヵ国で若者を対象とした開発事業や啓発活動を行っています。不衛生な生活環境で感染症などが多いベナンやブルキナファソでは、清掃活動や住民への衛生啓発を実施し、環境の改善をめざしています。

学生を中心に10地域で活動する日本では、飢餓の終わりを訴える啓発活動やチャリティイベントに取り組んでいます。昨年は 10 月の世界食料デーに合わせ、大学の学食に協力をお願いし、アフリカ風メニューの提供と世界の飢餓の現状や YEH の活動を伝える展示を行うイベントも企画しました。

また各国で年に1～2回、普段は別々の地域で活動するメンバーが各国内で一堂に会して、全国会議を行っています。

※回収キャンペーンの資金は、こうした YEH による開発事業や啓発活動の費用に活用させていただきます。この他、青少年の活動をサポートするために必要な調査・評価活動、各種研修や運営費の一部にも充てさせていただきます。

組織運営　ー活動をより効果的にー

各国での活動を着実に行うため、組織力強化を進めています。日本の本部では、専門技術をいかしたボランティアやインターンによって業務の質を向上させ、限られた資金で効果的に活動を推進しています。今後は国内外の職員の専門性や語学力を高める研修を行い、さらなる業務の効率化を進めます。7～8 月には一部の海外支部事務局長、職員に向けて、組織運営や会計に関する研修を日本で行う予定です。

5 月には各国の事務局長が一堂に会する会議をバングラデシュで開催。2015 年までの活動計画について検証、見直しを行ったほか、事業地の視察や各国の事例を交えての意見交換などを行いました。

HFW では、長年の活動を通して培ってきた経験をもとに、国際協力 NGO 全体への貢献も行っています。多くの団体が加盟するネットワークNGOとともに、アカウンタビリティー（説明責任）向上や危機管理対応など、他団体の運営能力向上のための講演、研修等に人材を提供するなどの協力を行います。

※回収キャンペーンの資金は、こうした能力強化のための研修費や会議の開催費など、運営費の一部にも充てさせていただきます。

2年ぶりとなる事務局長会議は、はじめて日本国外（バングラデシュ）で開催。

国内外の職員向けに研修を行い、さらなる組織力アップを進めます。

事務所に届く書損じハガキ等のカウント作業には、多くのボランティアが活躍しています。

＊前述の4ヵ国での開発事業に 35%（約 4365 万円）、アドボカシー・啓発・青少年育成などの事業（国外・国内）に 35%（約 4365 万円）、封筒製作費や料金受取人払いなどの回収キャンペーン経費に 30%（約 3742 万円）を使わせていただきます。